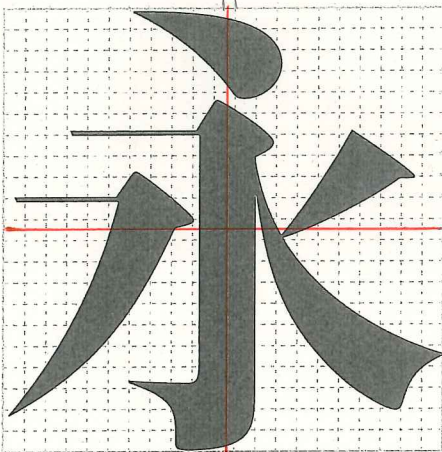


年 組 番 名前

レタリングに  
ちょうせん  
挑戦しよう

復習

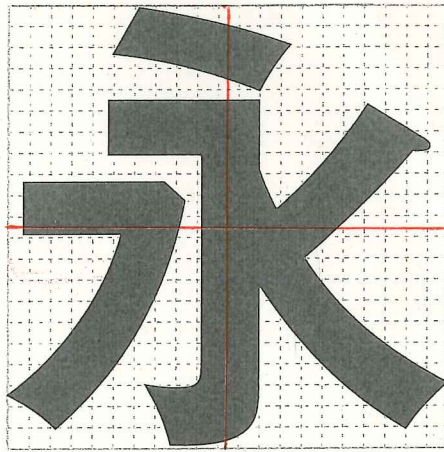
【 】体



この書体の特徴

Blank space for writing features, bounded by large brackets.

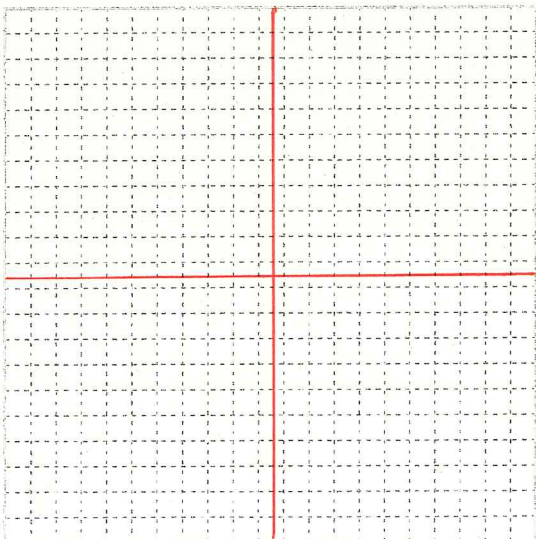
【 】体



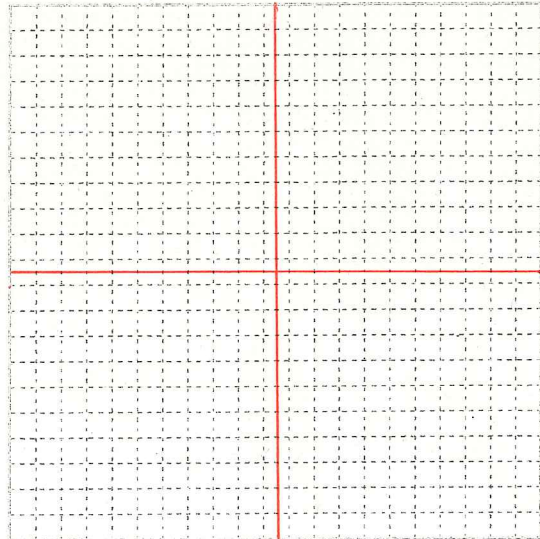
この書体の特徴

Blank space for writing features, bounded by large brackets.

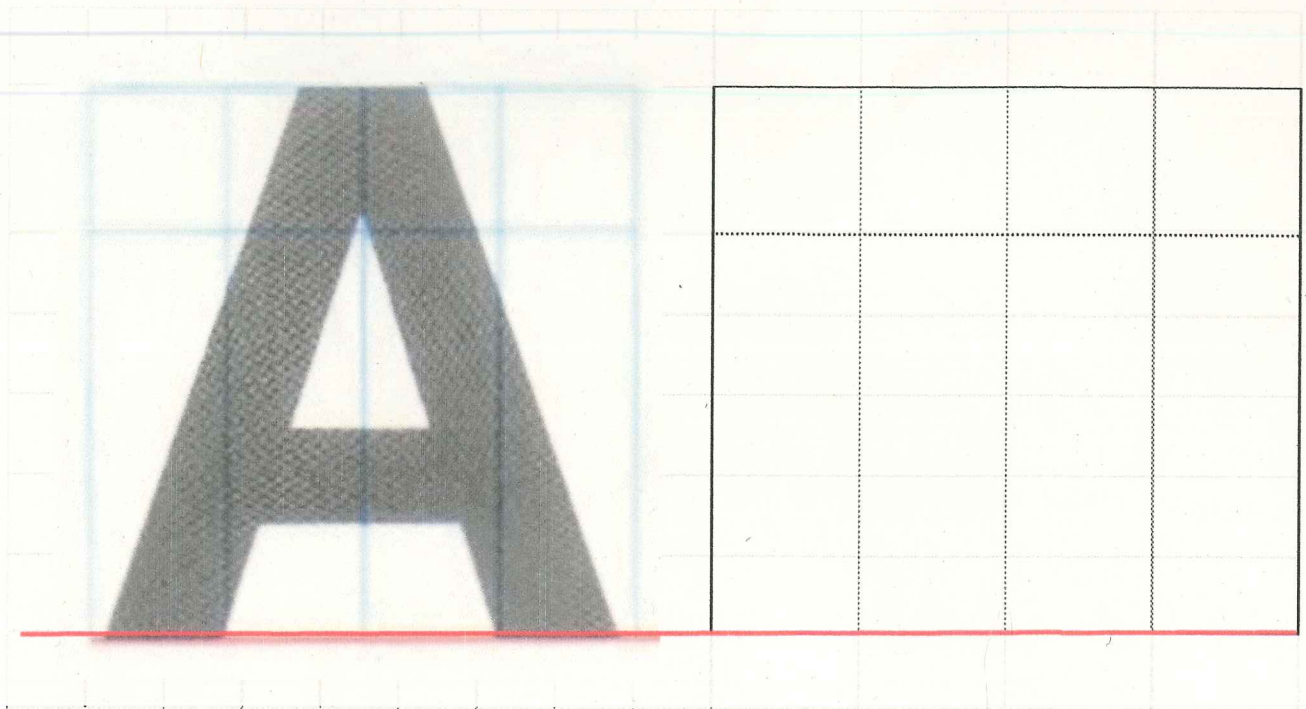
「永」の字の手本をよく見て、レタリングしてみよう。



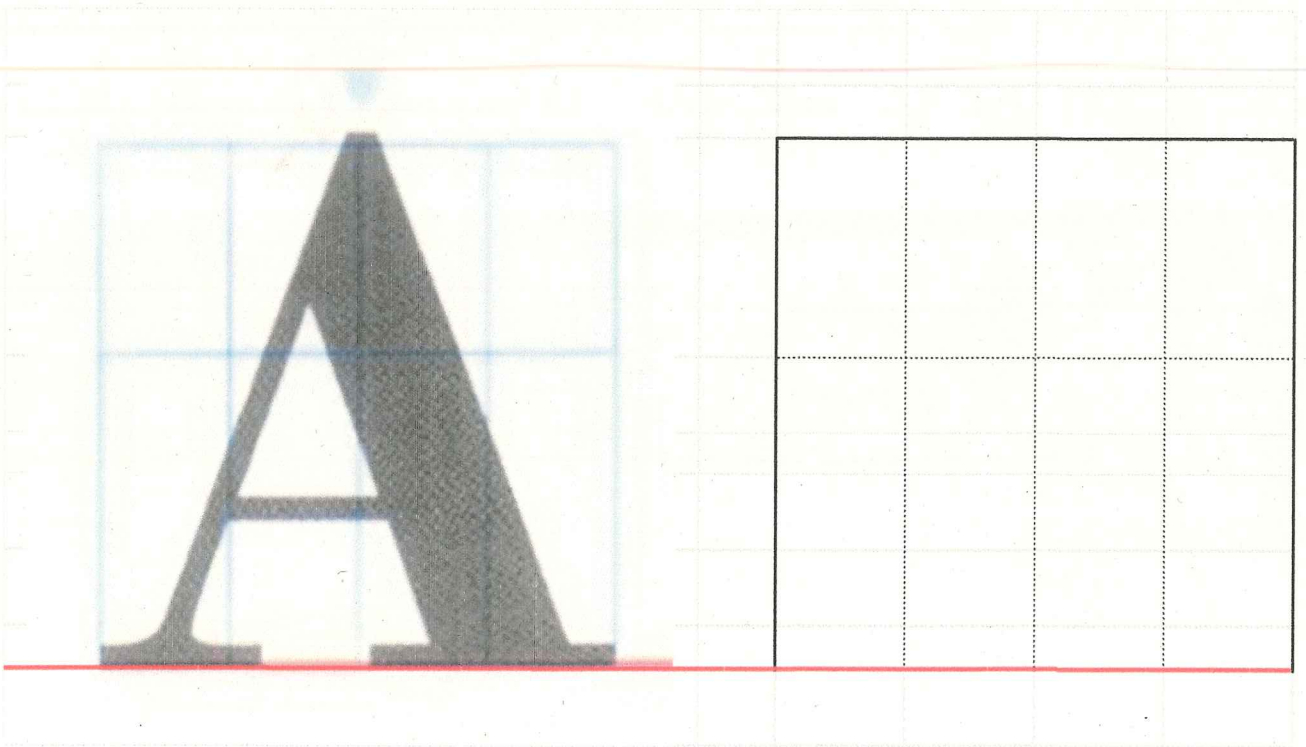
【 】体



【 】体



左の A をまねして、右の空欄にかいてみよう。



左の A をまねして、右の空欄にかいてみよう。

# 復習

## ■ゴシック体の基本

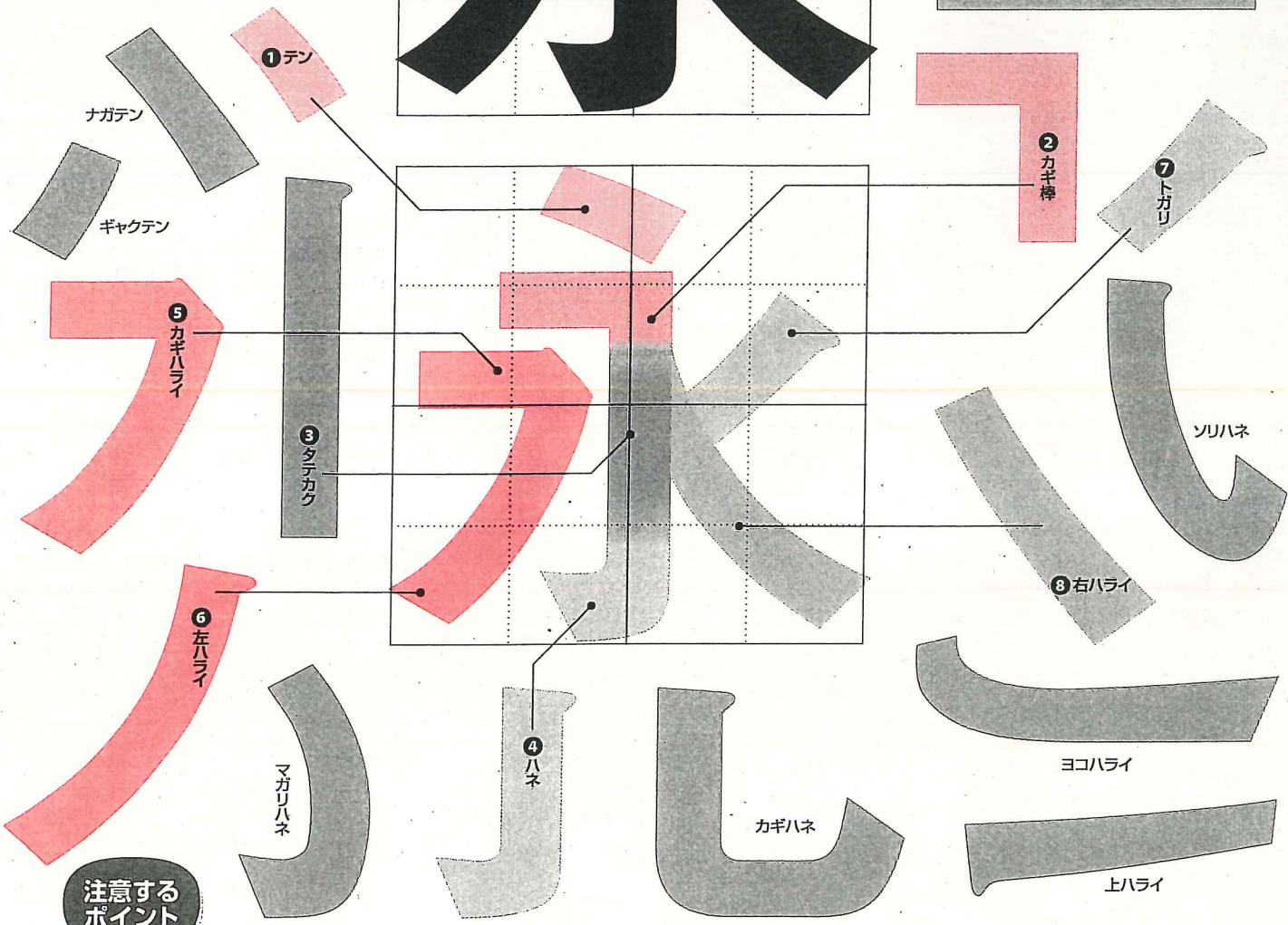
ゴシック体は原則として横画と縦画が同じ太さの書体です。角を丸く処理したものを「丸ゴシック体」、角張ったものを「角ゴシック体」と区別して呼ぶこともあります。この図は「角ゴシック体」の例です。

明朝体より力強い印象を与えるため、主に見出しなどの目立たせたいポイントでよく用いられます。



永 永 永  
永 永 永  
丸ゴシック体

太さの違う  
ゴシック体



注意する  
ポイント

**4つのテン(れっか)** 右へ行くほど長く末広にかく。

**ハネ** 明朝体とゴシック体の違いに注意する。

**カギハライ** 角の形は書体によって異なる。

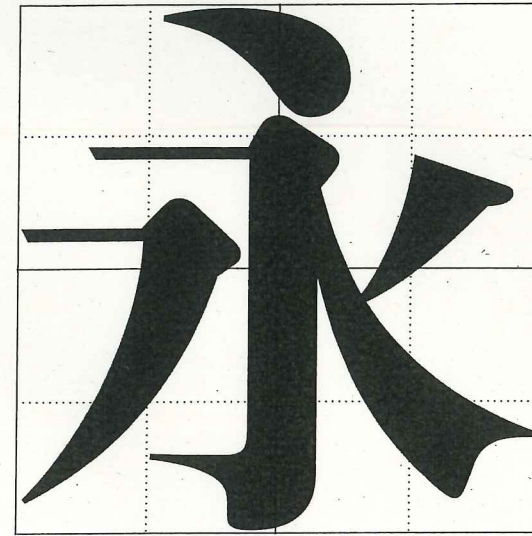


## 明朝体・ゴシック体の基本

明朝体やゴシック体は、印刷の歴史の中で美しく読みやすい形に改良されていき、完成した書体です。下の図は明朝体とゴシック体それぞれについて、「永」という字をもとに基本点画を示したものです。形をよく観察し、バランスを考えて美しい文字をかきましょう。

## ■明朝体の基本

明朝体は筆で書いた文字をもとにして中国の「明」の時代に様式化されたといわれており、「横画が細く縦画が太い」「横画の最後と縦画の頭に「ウロコ」というこぶがある」などいくつかの約束事があります。細い部分が繊細な印象を与え、小説や新聞などの長い文章が読みやすいという利点があります。



永 永 永  
永 永 永  
明朝体

太さの違う  
明朝体

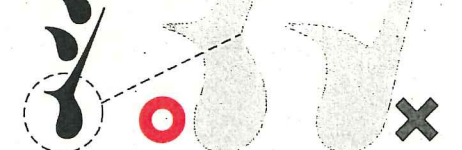
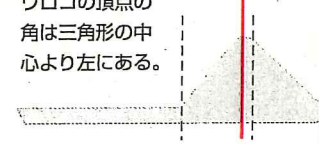
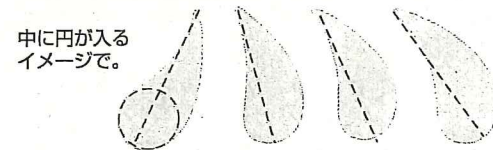


注意する  
ポイント

**4つのテン(れっか)** 右へ行くほど長く末広にかく。

**ウロコ** ウロコの頂点の角は三角形の中心より左にある。

**さんずい** ハネの出る位置に注意。



### ④ ローマン体



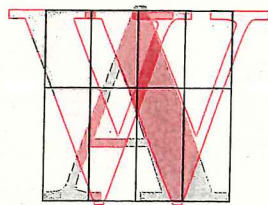
ローマン体は「セリフ」と呼ばれる装飾を持ち、縦棒と横棒の太さが異なる書体です。AとV、OとQなどにみられるような共通する特徴をとらえて統一感のある文字をかきましょう。ここでは、例としてローマン体の代表的な書体の一つである「ボドニー・ボールド」を取りあげます。

ローマン体を含め、セリフを持つ書体を総称してセリフ書体といいますが、セリフの形は書体によって異なります。

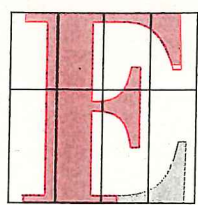


一番右のような太く四角いセリフを持つ書体を「エジプシアン書体」と呼ぶこともあります。

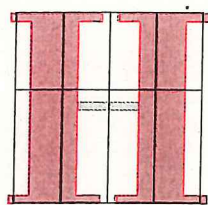
#### 共通する特徴の例 大文字



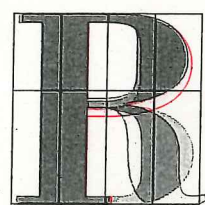
Vをすらして重ねた形からWが作られました。逆さにして横棒を加えればAになります。  
※細部のバランスは調整されています。



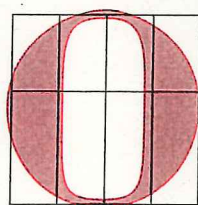
Eの下の横棒をとればFになります。  
※細部のバランスは調整されています。



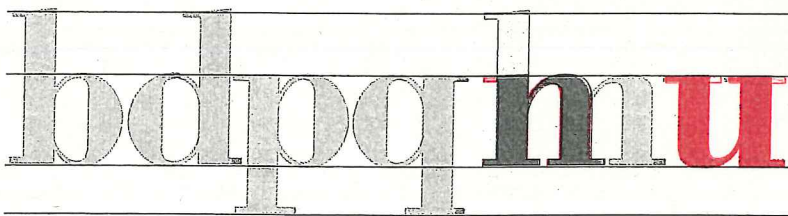
Iを2つ並べて横棒でつなげればHになります。



Bの右下半分をとればP、その形に「」を足せばRになります。  
※細部のバランスは調整されています。



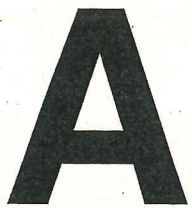
Oの下に「」をつければQになります。



#### 小文字

bとdは左右逆向き(セリフは一方)、pとqは左右対称です。mの形の左半分がn、左の縦棒を長くするとh、上下を逆にしてセリフをつけかえるとuとなります。  
※細部のバランスは調整されています。

### ⑤ サンセリフ体



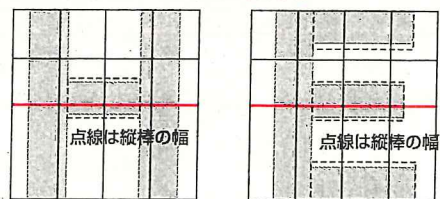
「サンセリフ」は「セリフがない」という意味です。縦棒と横棒の太さがほぼ同じで、漢字・かな文字と同じようにゴシック体と呼ぶこともあります。ここでは、例としてサンセリフ体の代表的な書体の一つである「ヘルベチカ・ボールド」を取りあげます。

英文字のローマン体とサンセリフ体の関係は、明朝体とゴシック体の関係に似ているよ。



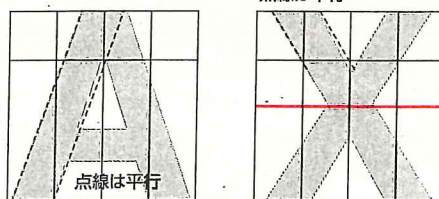
#### 注意するポイント 大文字

赤線は枠(キャップハイト)の上下の中心



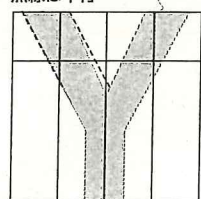
HやEは、縦棒より横棒を少し細かくすることで、バランスがよくなります。また、中の横棒は中心より少し上にかきます。

点線は平行



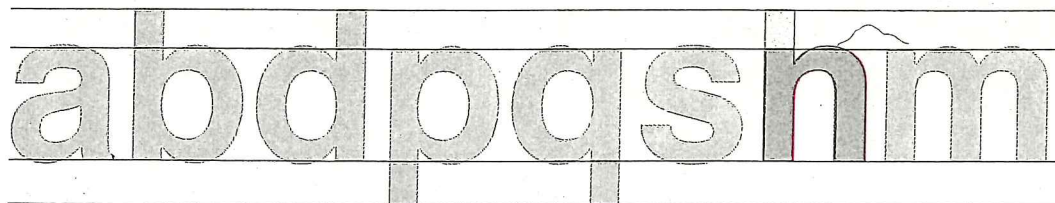
A、X、Yの斜めの線は平行ではなく、内側の切れ込みが深くなっています。また、Xの交点は中心よりわずかに上です。

点線は平行



#### 小文字

aの下部やb、d、sの曲線など、線の太さが均一でない文字もあるので注意しましょう。bとd、pとqは左右対称です。nとhは同じ幅で、mの左半分はnよりもやや狭くなります。



## 英文字(ラテン文字)の基本

英文字で広く使われる書体は、大きく分けて「ローマン体」と「サンセリフ体(ゴシック体)」の2種類です。英文字独自の特徴をとらえ、美しい文字がかけられるようにしましょう。

古代ギリシャ文字を源流に持つラテン文字は、紀元前6世紀ごろにラテン語を公用語とするローマ人によって発明されたといわれており、ローマ帝国の領土拡張によりヨーロッパ全体に広まった。

### ① ラインシステム

英文字は漢字・かな文字とは異なり、下の図のように5種類の線(ライン)を基準にしてかかれます。この仕組みを「ラインシステム」といいます。

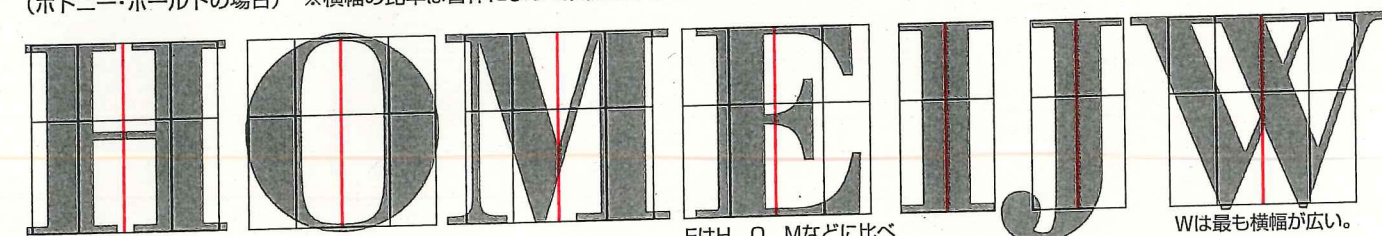


※アセンダー、エックスハイト、デセナー、キャップハイトの長さの比率やアセンダーラインの有無は書体によって異なります。

### ② 文字の幅

英文字は文字によって幅が大きく違うので注意が必要です。p.14~15の見本も参考にしましょう。

(ボドニー・ボールドの場合) ※横幅の比率は書体によって異なります。



EはH、O、Mなどに比べ少し横幅が狭くなる。

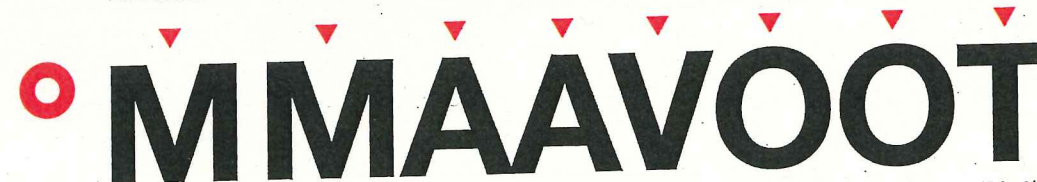
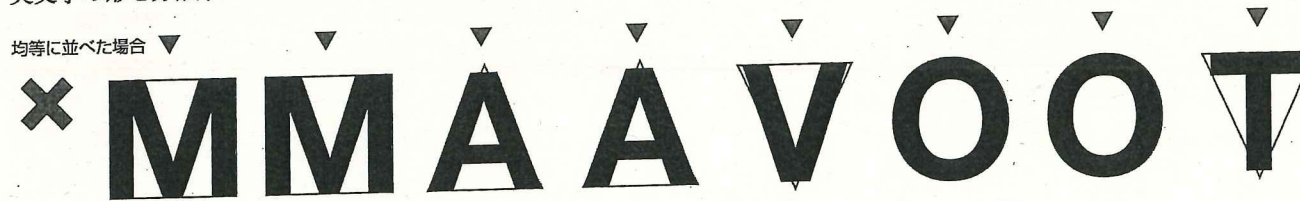
Wは最も横幅が広い。

正方形の枠の縦の中心線(赤線)と文字の中心を合わせています。Jの場合はステム(縦棒)の中心を合わせています。

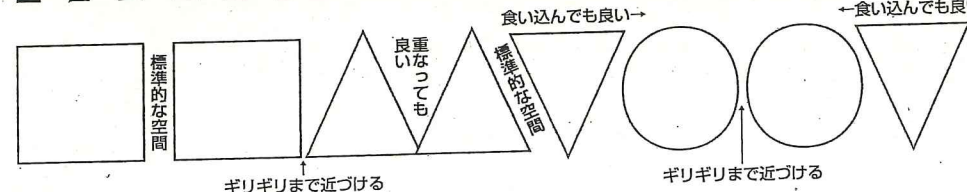
### ③ 文字の形とスペーシング

英文字の形を分類するとだいたい△□○▽になります。形によって次の文字とのアキを調整してかくようにするとバランスが取れます。

均等に並べた場合



文字と文字の間の面積が平均的に見えるように、文字を近づけます。場合によっては、字が少し重なるほど近づけても構いません。



ギリギリまで近づける

ギリギリまで近づける

■サンセリフ体 (ヘルベチカ・ボールド)

ローマン体と比較しやすいように、大文字の高さ(キャップハイト)を同じにしています。縦線の数で横幅の違いがわかります。jのみステムの中心を枠の中心に合わせています。アセンダーラインはありません。

A B C D E F G H I

J K L M N O P Q R

S T U V W X Y Z

キャップライン

ミーンライン

ベースライン

a b c d e f g h i j k l

デセダーライン

m n o p q r s t u v w

x y z & ? ! . , : " ' ( )

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

英文字 -ローマン体・サンセリフ体-

ローマン体とサンセリフ体の代表的な書体です。文字の幅やバランスをよく観察しましょう。

■ローマン体 (ボドニー・ボールド)

横幅を比較しやすいように、2~4分割で等間隔に縦線を入れてあります。大文字4分割の枠が正方形です。枠の左右の中心に、文字の左右の中心(Jとjはステムの中心)を合わせています。アセンダーライン、デセダーラインは小文字を含む行のみ設けています。

A B C D E F G H I

J K L M N O P Q R

S T U V W X Y Z

キャップライン

ミーンライン

ベースライン

a b c d e f g h i j k l

アセンダーライン

デセダーライン

m n o p q r s t u v w

x y z & ? ! . , : " ' ( )

1 2 3 4 5 6 7 8 9 0

※AやVなどの先端が尖った文字や、CやOなどの丸みのある文字は上下のラインから少しはみ出させてバランスをとります。( 示した部分)